

議長（志村 忠昭）

これ以上長くなるといけませんので、途中ですが、一応もうこれで切りたいと思います。

尾崎議員、また教育長に個人的にまたお聞き願えたらと思いますのでお願いいたします。

もう時間は時間ですので、これで切りたいと思います、よろしくお願いいたします。

これをもって10番 尾崎 忠義議員の質問を終わります。

続きまして、4番 村井 保夫君、お願いいたします。

議員（村井 保夫）

4番 村井 保夫、一般質問をさせていただきます。

質問は1つです。

まず、昨年台風接近による桜川の越水対策について質問があります。

昨年9月の台風18号の到来により、桜川も越水で元町、京町地区において、住家の床上浸水84戸、床下浸水209戸という大変多くの被害がありました。大変遅くはなりましたが、お見舞いを申し上げますとともに、職員及びボランティアの皆様に御礼を申し上げます。

そこで質問ですが、排水ポンプの1時間当たりの排水能力は幾らかお知らせください。

町長（丸尾 幸雄）

村井 保夫議員ご質問の排水ポンプの1時間当たりの排水能力についてお答えをしております。

桜川排水機場は、東港町の防潮水門から上流の桜川の内水排除を目的としてポンプ設備を設置しております。その排水能力につきましては、毎秒4.8トンのエンジンポンプが2台と、毎秒1トンの水中ポンプが3台設置されており、5台全てのポンプを稼働した場合、最大排水能力は、毎秒12.6トンの排水能力であります。

以上、答弁とさせていただきます。

以下の質問に関しましては、担当課長より答弁をさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

議員（村井 保夫）

今ポンプ5台全ての能力が毎秒12.6トンということですが、これはいつ頃計算された能力ですか。水門が移設する前の能力のままですか。

建設課長（三谷 勝則）

ただいまの村井 保夫議員の再質問について答弁をさせていただきます。

現在の桜川排水機場のポンプ能力につきましては、県が河川改修によって、

旧あった町民会館横にありました水門をそのまま機能回復したもので、以前の計算については、こちらのほうでは把握は出来てないんですが、もともとあったものを、そのまま機能回復として、現在の桜川河口に移設したものであります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

ありがとうございます。

普通ですと、水門移設のときには、やはり時代が変わると思うんで、排水ポンプ能力も多少は大きいのをつけていくのが普通だと思っております。

それで、次の質問に入ります。

なぜ現在の水位が最低水位であるのか、それと現在の水位からどれくらい上がれば排水ポンプが回りだすのか、済みませんが、よろしく願います。

建設課長（三谷 勝則）

ただいまの村井 保夫議員のご質問、なぜ現在の水位が最低水位なのかについてお答えいたします。

桜川の河川整備に当たっては、県が策定した桜川水系河川整備計画により、流水の安全な流下や浸水被害の軽減を図ることを考え、河川断面を確保するため、河床を避けて改修する計画となっております。そのため、干潮時の外水位より、桜川の計画河川河床高のほうが低いいため、現在の水位の状況となっております。ご理解のほど申し上げます。

次のご質問、現在の水位からどれくらい上がれば排水ポンプが回りだすのかについてお答えいたします。

台風やゲリラ豪雨等の大雨に伴う排水ポンプの起動につきましては、自動運転管理は行っておりません。桜川排水ポンプ施設操作要領に基づき、海側の外水位が高く、防潮水門が閉まった状態で排水ポンプの吸い込みが可能となる最低水位については、東京湾平均海面であるTP表示でプラス0.2メートルの設定となっております。なお、ポンプの操作につきましては、潮位の干満や降雨の強度により、海側の外水位と河川内水位の増加状況を総合的に判断し、防潮水門の閉鎖のタイミング及び排水ポンプの起動について判断をしております。昨年の台風18号の際も、出来るだけ内水位を下げられるよう、排水機場の操作を行ったところであります。また、通常時の排水については、防潮水門の主ゲート2門は閉めており、魚道ゲート部分に設置されたフロー転倒ゲートにより、干満を利用した自然排水を行っております。ご理解賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

今の回答で掘り下げて改修する計画となっているそうですが、どの辺を掘

り下げるのか、それと干潮時の外水位より桜川の河川河床高のほうが低い
ため、現在の水位の状態と言われましたが、何年か前にも質問したと思
いますが、これは県の水門の設置場所選定のミスではないんですか。本
来ならば、上流へ上げるのが本来で、下げたら海との海面差が減って
くるのが原因と何年か前にも言ったと思いますが、これで県のほうの
選定場所のミスではないんですか。

それと、現在自動運転は行っていないということで、その自動運転を
行っていない理由をお願いします。

それと、海側の外水位が高く、防潮水門が閉まった状況で、排水ポン
プの吸い込みは可能となる最低水位について、東京湾平均であるTP
表示でプラス0.2メートルの設定ということですが、今現在この設定
は今現在の水位よりどれくらい下なのか教えてください。

建設課長（三谷 勝則）

村井議員の再質問についてお答えいたします。

まず、現在の桜川の河床の掘削の部分についてですが、これについては、
現在の桜川排水機場から上流に向かっての掘削を行っております。

次に、県の計画についてですが、県の計画については、雨量等の計算
の中で、実際に桜川が必要な排水能力を計算上でした中で、現在の深
さを決定しておりますので、状況としたら、干潮時の水位より低い河
床にはなっていますが、実際の雨量が振ったときの能力的に必要な断
面を確保するための断面となっております。

次に、自動運転についてですが、この自動運転については、現在その
システム上、今なってませんので、現在ゲリラ豪雨、台風等のときには、
実際目で見ながら管理委託している業者によって運転を行ってあり
ますが、この自動運転についても、今後今までの経緯とか状況、台風
の状況の中での実績の運転を確認しまして、自動運転ということも
考えていきたいと考えております。

次に、TP0.2メートルの高さについてですが、ちょうどこの役場の前
のところで桜川の中に1つ小段があると思います。あの高さが1メー
トルです。あれから約1メートルぐらい下がった位置がポンプの稼働
水位となっておりますのでご理解いただきたいと思います。以上、答
弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

河床を掘り下げるということは、現在の保有水面を増やすだけで越
水対策になるんですか。その辺を一つお願いします。

問題は、越水対策であって、保有水量を増やす、その辺の工事関係
ではないんですか。そういう金があるんだったら、魚道ゲート部分に
設置されたフロ

ート転倒ゲート、あれをもう一個付けて50 c mでも早目に水が抜けるようにしたほうが、そこへお金をつぐほうが越水対策になるのではないですか。

議長（志村 忠昭）

今の説明は。

議員（村井 保夫）

それと、自動運転・・・。

議長（志村 忠昭）

まだ。自動運転。

議員（村井 保夫）

自動運転もやはり必要でないんですか。目で見て上から1メートル、2メートルでポンプのスイッチを入れるよりは、自動運転で最低でも今現在の水位でポンプが回るようにしとけば、それだけの余裕が出来てくるわけで、それが昨年越水した水量分は十分補えると思うんですけど、いかがですか。

町長（丸尾 幸雄）

今桜川の改修とかまたポンプの件のことですが、これはほとんどが越水対策です。そして、今何で掘削をするのか、川の底を掘るのかということにつきましては、川の底を掘る、また川を拡幅する、そのことによって上流から流れてくる水量が増えます。それがどんどんと海に流れ込むことによって、上流での越水が防げるわけです。これが今の桜川の河川の越水対策の根本的な考えであります。今ちょうどこの桜川の福祉センターの隣くらいです、ちょうど榜立神社の横くらいのところまでは河川の掘削が終わっております。河川の掘削をするということは、上流からの水の量を増やすということです。どんどん上流からの水を増やすことによって、上流での越水が防げるということです。そういう考えのもとで今やっております。今「二ツ橋」というところがありますけども、その桜川橋、「新開」橋はもう終わりました、もう一つ小さな橋があります。その橋を改修した後に、その近辺の掘削を行っていき、そして今小さな橋のところも拡幅をしています。河川の拡幅をすることによって、上流での越水を防ぐということです。たくさん水をいつか流し込む、それが越水対策の根本的な考えであります。どうかご理解を賜りますようお願いいたします。

議長（志村 忠昭）

三谷課長、自動運転。

建設課長（三谷 勝則）

議員の自動運転にということでご質問いただいた件ですが、現在魚道ゲートを下げてはどうかということの1点ですが、これについては、先ほど説明した中で干潮時の水位より下がってますので、魚道ゲートを下げることに

って流入が今得られるような構造にはなっておりませんので、現在の魚道ゲートの高さを変える意味がないので、今の高さになっております。

自動運転についても、これはポンプの構造上の高さで決まっていますので、そこでかけれるということで、運用をさせていただいていますので、その中の高さ設定になっていますので、ご理解いただけたらと思います。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

どうも町長と執行部と私の考えが違うようなんですが、とにかく私が考えるのは、今現在の保有水量を減らしていけば、今まで回してきているポンプを回す水量の高さまでのその分余分に入るのではないんですか。そっちのほうが一番簡単ではないんですか、お金はかからんし。

議長（志村 忠昭）

三谷課長、もうちょっと詳しく分かるように説明してあげください。

建設課長（三谷 勝則）

村井議員の再質問についてお答えさせていただきます。

なぜ掘り下げるのかということなんですけども、基本的には河川ですので、計画流量が決まっております。その計画流量の断面をまずは流せるという断面が必要ということで、桜川については両側に住宅がもう建っております。あれ以上広げることが出来ないということで、現在掘削したような対応で桜川を浚渫をさせていただく中で、それも一つのポケットとして考えております。当然それを排出するためのポンプも必要ではありますが、それについて今現在そのポケットについても、併せて県でかさ上げ工事もしていただくのと、ポンプの増強のほうも併せて計画のほうを検討いただいているところであります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

出来るだけ経費節約でポンプを回さない方向というのは分かるんですけど、これは先ほども言うたように、県の水門設置場所の選定のミスがあるわけで、早目にポンプを回して、その電気代ぐらいは県のほうに負担させたらどうかなと思うんですけど、そのほうが被害があった弁償よりは安いかなと思うし、住民の安心・安全を守るんやったら、そっちのほうで保有水量を減す方向が一番。保有水量を増やすのも一つの方法かも分かりませんが、今現在の保有水量を減らすのも一番ではないのかなと思いますが、いかがですか。

議長（志村 忠昭）

今の話は、どうも村井さんの思いと執行部の思いと少しずれとるようなんで、村井さん、悪いけど、またこの本会議が済んだ後、建設課長のほうに十

分その辺を説明しながら、お聞き願えたらと思います。どうも建設課長も町長も村井さんが言よる話とはどうもちょっと違うような答えばかりしよるんで。

議員（村井 保夫）

私が言よんは、今現在の保有水量を下げること。

議長（志村 忠昭）

流入量を下げたらいいと言よんやろう。

議員（村井 保夫）

はい。

議長（志村 忠昭）

ほんだけんども。

議員（村井 保夫）

ただ、今現在が目で見た水位でポンプスイッチを入れとるそうなんです、逆に言えば、このフロート転倒ゲートが流れるころにはもうポンプを回しよったほうがいいんじゃないかなと思うんです。それでいけば、流入量がいつも12.6トンより多いということはないと思うんで、減っていく方向でしょう、回せば。12.6トンというんは、常には12.6トン以上は入ってこないですから。

議長（志村 忠昭）

ちょっと話が食い違いよるみたいな感じやきに、後ほど村井議員のほうから町長のほうなり、建設課長のほうに説明をして、ほんで答えをもらってください。今話しても、どうも食い違うばかりでうまく説明できよらん感じやから、後ほどまた建設課長のほうに説明を求めてください。お願いいたします。

議員（村井 保夫）

はい、分かりました。

議長（志村 忠昭）

皆さんもよう分からんやろ。

次の質問に行ってください。

議員（村井 保夫）

以上で終わります。済みません、簡単なことで。

議長（志村 忠昭）

台風18号による最大流入量はどれくらいという。

議員（村井 保夫）

まあ、それが残ったんですか、済みません。

昨年台風18号による最大流入量はどれくらいあったのかということです。

お教えてください。

建設課長（三谷 勝則）

ご質問の昨年台風18号による最大流入量はどれくらいであったかについてお答えいたします。

桜川の流入量について、河川管理者である県に問い合わせをしたところ、河川においては、常時の流量観測は行っていないとの回答をいただいております。昨年の台風18号の際の流入量については、詳細な雨量や桜川の断面などから推測した流量として、毎秒72トンであったと説明を受けております。ご理解をお願い申し上げ、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

毎秒12.6トンの排水能力の中で、最大72トンということですが、この最大72トンが流入した時間はどれくらい、ずっとではないでしょう、30分ぐらいですかね。

建設課長（三谷 勝則）

村井 保夫議員の再質問についてお答えいたします。

この最大流入量については、県に時間を確認したわけではありませんが、当時7時から8時にかけて多分20ミリほど多度津町では雨量を観測しておりますので、時間的にはそのあたりの時間だったと思われま。

以上、簡単な説明ですが、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

先ほど言っていることが食い違うとるとか言われたんですが、私が言いたいのは、今現在の水位を下げ、今まで回している水位までの差額のみが余分に入ること、72トン、要するに満潮時の前後1時間、合計2時間を1時間、1時間、それをしのぎさえすれば、越水、浸水被害がないのではないかなと思うんですけど、いかがですか。

議長（志村 忠昭）

要は桜川を空にしとったら。

議員（村井 保夫）

いや、空ではないんですけど。

議長（志村 忠昭）

ほとんど空にしとったら、ぎょうさんに言うたら、空にしとったら、時間がある程度もつやないかと言いたいんやろ。

議員（村井 保夫）

はい。水位を常に下げ、早目にポンプが回るようにすればいけるのではないかなということ。

議長（志村 忠昭）

まあ、そういうことです。

ほんなら、丸尾町長、説明をお願いいたします。

町長（丸尾 幸雄）

済みません、答弁しますので聞いていただけますか。

今の村井 保夫議員さんのご質問に対して、まず最初は、今私どもの一番大きな課題というのが越水対策です。これはもう村井 保夫議員さんと同じ考えであります。その中で、越水対策としてどういう方法が一番効果的なのかということではありますが、今水門のことは後から言いますけども、今この8月に起きました18号台風、何で越水したか、それは上流からの雨量が多かったということ。そして満潮時期に水門を閉めてしまったために、それをポンプで排水しなければいけない。そのポンプの排水能力が低いということが大きな原因であります。そのために今県にも相談をいたしました、河川のかさ上げをさらなるかさ上げを行っていただくことに決まりました、そして河川の堤防を高くするということによって、川の水の量が多く流れるということになります。そのために、まずは先ほど申し上げましたのは、河川を拡幅する、そして掘削をするということは、大量の水を瞬時に海に流し込むということです。そのことが重要なので、その河川改修を行っている。その中で、今「二ツ橋」までのところは出来てますので、今橋の改修に伴って、橋の改修が終わったら、今度は橋も少し高くなります。その橋の改修が終わったら、あとの掘削も行っていく。今小桜川の掘削です。土砂の排除、そういうことも考えておりますが、それは出来るだけ大量の水を海に流し込むためです。そのための越水対策であります、そして水門ですけども、今12.6トンというのは、これは今多度津町に流れ込む水量にしますと、小さいポンプのキャパ、容量になります。これは、先ほど建設課長のほうからも説明を申し上げましたが、旧の桜川のと、今拡幅し、掘削をしておりますが、その前、町民会館の狭いときにあった水門です、水門のキャパです、容量です、力です。それをそのまま持っていきました。その当時の町財政も考慮しながら、またなかなか県との話し合いの中におきましても、なかなか出来なかったということがあります。そして、今その12.6トンよりももっと大きな容量にする必要がありますので、それが1トンにつき1億円ぐらいかかるという試算が出てます。なかなか財政を悪化する要因になりますので、それも少しずつ一台一台増やしていかなければいけないなと思っております。

以上でございます。ご理解賜りますようお願いをいたします。

議員（村井 保夫）

かさ上げをするという回答ではありますが、かさ上げして、桜川の水位が上がれば逆流して、水路から逆流して、逆に住宅のほうへもたくさん入るよう

になるのではないんですか、よう分からないですけど。

建設課長（三谷 勝則）

ただいまの村井議員の再質問なんですが、かさ上げをしたら、今度住宅側のほうへ逆流して、そちらに水が入るのではないかということの質問についてですが、それについては逆止弁とあって、水路の出口に対して、逆に桜川の水が入らないような構造のものを水路の出口に今回かさ上げとあわせて設置をする予定にしております。それと併せて、内水位といいまして、住宅側の水の排水についても、今建設課のほうで調査しながら、必要などころにはポンプを設置する必要があるという形で今検討を進めておるところでございます。ご理解いただいて、答弁とさせていただきますと思います。

議員（村井 保夫）

今建設課長から説明があったように、逆止弁をつけるかわりに、やはり排水路の出口のところは、そこに水がたまるように低くなっていると思うので、それをするんやったら、排水ポンプが各部署、適当な場所で必要であると思います。その辺は今後ぜひ各何カ所かは設置していただいたらと思っております。以上で終わります。ありがとうございました。また後で建設課へ行きます。